

《巻頭言》

「Métier Vol.9」発刊にあたって

校長 深谷 浩一

このたび、本校の紀要「Métier（メティエ）Vol.9」を刊行できますこと、たいへん嬉しく思うとともに、刊行に至るまでに、執筆された先生方をはじめ、資料提供などご協力いただきました多くの先生方に心より感謝申し上げます。

特に今年度は、新型コロナウイルス肺炎の感染拡大を防ぐため、3月1日の卒業式の規模を縮小し在校生を式に参加させないなどの措置を取らざるを得なかったり、3月2日から修了式までの間、部活動や課外授業を含む一切の教育活動が停止となるなど、本校も大きな影響を受けました。これにより、本紀要の編集も大幅に遅れるなど多大な影響を受けましたが、「こんな時であるからこそ、この1年間の教育活動については書き記しておく必要がある」との思いから何とか刊行にこぎつけることができました。

本冊子は、今からちょうど10年前に、当時の萩野谷校長の提案で創刊された教職員による研究紀要で、タイトルの“Métier”（メティエ）はフランス語で「良い仕事」という意味で、「専門性の高いプロの教員が同業者として互いに切磋琢磨し、知識・技術を向上させ、『良い仕事』を本校の教育活動の中で実践していく」（「Métier Vol.1《巻頭言》」より。）、そんな願いが込められています。

この萩野谷校長の時代に羽鳥駅に掲げられた本校のキャッチフレーズ「『知』の中央へ！」が羽鳥駅構内に掲示されました。昨年度からは“the Center of Virtue”という英字とともに本校校門前にも掲示することにより、「『知』の中央へ！」の「知」が単なる知識ではなく、「博愛」の精神に満ちた「美德」（Virtue）であることを広く示したのです。

さて、今回の“Métier Vol.9”には、「学校運営」の章で赴任早々韓国研修を命ぜられ、日韓関係が悪化する中、無事研修を終えられた吉田先生の寄稿、「学習・教科指導」の章ではかつて本校に勤務していたあるALTによるボランティア活動を取り上げた鈴木（美）先生の実践記録、「部活動」の章では、赴任以来バスケットボール部（最初は同好会）の指導に専念し、今や県南地区の最有力校に育て上げた佐藤先生と茨城国体の新体操競技において茨城県を第3位に導いた鈴木（菜）先生の指導実践を収めるなど、総勢18名の先生方による珠玉の原稿の集大成となりました。執筆いただいた先生方にお礼を申し上げるとともに、この“Métier”をとおして、多くの皆様方に、本校教育の日々の実践を知っていただければ幸いです。

最後に、今後とも地域で愛され、社会で必要とされる自律した人間の育成をめざして、魅力ある学校づくりに邁進する覚悟ですので、本校に対する変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。「Métier Vol.9」の「巻頭言」といたします。